

ウシモツゴ *Pseudorasbora pugnax* Kawase et Hosoya

【選定理由】

伊勢湾周辺の固有亜種。1960年代には濃尾平野に広く分布していたが、現在、県内では5か所程度の丘陵地のため池で生息が確認されているにすぎない。比較的単調な環境であるこれらのため池でオオクチバスやブルーギル、近縁種であるモツゴの侵入などの負荷がかかると、本亜種は短期間で絶滅に至る。

【形態】

体長5cm程度で大型の個体は体長8cmを超える。雄は雌に比べ大きい。体は円筒形で、近縁種のモツゴに比べると体高や尾柄が高く、ずんぐりした印象を受ける。側線鱗は不完全で1枚から5枚である。縦帯はあるが、モツゴやシナイモツゴとくらべ不明瞭で、それを欠く個体も多い。繁殖期に雄は黒くなる。追星はあるが、モツゴに比べるとかなり小さい。

【分布の概要】

【県内の分布】

長久手市、日進市、豊田市、西尾市（野生絶滅）、犬山市（野生絶滅）、小牧市（絶滅）、岡崎市（絶滅）、春日井市（絶滅）。

【国内の分布】

岐阜県、三重県。

【世界の分布】

日本固有亜種。

【生息地の環境／生態的特性】

現在確認されている生息地は湧水を水源とする山間のため池に限定されている。これらの生息地では、カワバタモロコやミナミメダカ、そのほか湿地に生息・生育する希少な動植物も確認される場合が多い。

【現在の生息状況／減少の要因】

ため池の埋め立て、外来魚の侵入により減少したものと思われる。以前生息が確認された小牧市の個体群は生息環境の改変がないにもかかわらず、モツゴの生息が確認された3年後に本亜種が見られなくなった。2004年にブルーギルの増殖が確認された犬山市の個体群は2005年に野生絶滅した。過剰採集や密売を行う飼育愛好家、無秩序な増殖・放流を行う自然愛好家の存在も本亜種の保全を行う上で障害となる。

【保全上の留意点】

魚食性外来魚とモツゴの侵入に注意する。産卵基質として比較的大きな沈石を好むため、池内にこのような沈石が多くあることも重要条件である。

【特記事項】

野生絶滅した西尾市と犬山市の個体群は、それぞれ碧南海浜水族館と公益財団法人日本モンキーセンターで系統保存が行われている。県内のウシモツゴは遺伝的に異なる濃尾系統、東尾張系統、伊勢・三河系統の3つの個体群が分布している。

2010年、県条例に基づく指定希少野生動植物種に指定された。

【関連文献】

- 中村守純, 1969. 日本のコイ科魚類, 455pp. 資源科学研究所, 東京.
大仲知樹・森 誠一, 2005. ウシモツゴー平野から山間の溜池へー. 片野 修・森 誠一 (監修・編), 希少淡水魚の現在と未来ー積極的保全のシナリオー, pp.111-121. 信山社, 東京.
鹿野雄一・北村淳一・河村功一, 2010. 絶滅危惧種ウシモツゴの繁殖生態と保全策, および近縁種モツゴとの比較. 魚類学雑誌, 57(1): 43-50.
向井貴彦, 2013. 岐阜県におけるウシモツゴの再導入の成功と失敗. 見えない脅威“国内外来魚”, pp.217-228. 東海大学出版会, 神奈川.

(大仲知樹)